

(2) 飯山の場合 ～ 研修雑感 ～

ア はじめに

奄美高校に赴任して六年目を迎えた今年度、自身三度目となる無人島での『奄美ならでは研修』に参加した。一昨年度、初めて参加した「研修」は加計呂間島の天皇浜という“無人浜”で厳密には無人島ではなく、また、昨年度二度目は宇検村の枝手久島で焼内湾に面した海岸で行ったため、無人島にもかかわらず無人島を感じることはなかった。三度目にしてようやく奄美の外洋に浮かぶ、いわゆる無人島への上陸となった。

二日間の「研修」の行程は他の参加者と重なる部分が大半を占めるため割愛させて頂き、この二日間を振り返って、自身の中で思いの外成功した事や失敗した事を例に挙げ、キャンプ・アウトドアに関する雑感を述べてみたいと思う。

イ 溢れるアウトドア・キャンプの情報

「第三次キャンプブーム到来！」などと巷で話題となって久しい。テレビの情報番組やバラエティ番組、さらには各種オンライン動画配信サービスまで、キャンプやアウトドアに関する様々な情報が飛び交っている。特に某オンライン動画配信サービスでは、『キャンプ』というワードで検索するだけでもかなりの数の動画がヒットし、ソロ、グループ、ファミリー、グランピング、ブッシュクラフト、キャンピングカーを利用したオートキャンプ、バイクを使ったキャンプツーリングまで、多岐にわたるキャンプの様子が配信されていることがわかる。実は私の数少ないキャンプ・アウトドアに関する知識のおよそ8割はここで得られたものである。最新のキャンプ・アウトドアグッズの紹介や、手作りグッズの作り方とそれを実際に使用している様子、アウトドア料理の紹介から、「百均商品のみでキャンプやってみた」などなど、その内容も千差万別だ。中には焚き火の炎だけを延々と流す動画も存在する。動画を通して道具に関する知識も身につけることができるし、「自分だったらこんなことをして・・・」などと妄想に近い想像を膨らませることもできる。自宅に居ながらにしてキャンプの雰囲気を味わうことができるのだ。いい時代になった。このような情報が溢れることでキャンプやアウトドアに対するハードルは確実に低くなっていると感じると同時に、私自身がこのブームに完全に飲み込まれていることに気づく。

ウ 通販価格 700 円の優秀なやつ

「研修」への参加も三度目にもなると、荷作りもだいぶはかどる。出発前夜、この数年間で揃えてきたキャンプ道具を一つずつ確認しながら鼻歌交じりで新調したバッグに詰め込む。もしかするとこの瞬間が「研修」の日程の中で最高に楽しい時間なのかもしれない。

今回新調したバッグは、かの有名な北欧発祥の世界最大の家具量販店で販売されているもので、商品を入れるために客が入り口付近で購入するブルーシートの素材でできているもので、つまり、バッグというより「頑丈な買い物袋」なのである。この袋の存在を知った時、入手のために奄美からその家具量販店まで行くことが困難であったため、少し割高となったが、某世界的通販サイトで購入した。形は直方体でキャリーカートに設置して使用できるタイプで、容量がおよそ 100L あり、ソロテント・マット・チェア・ミニテーブル・クッカー・バーナー・水中眼鏡にシュノーケル・洗面道具・最小限の着替え・その他諸々がすっぽりと収まる。ボストンバッグのように取手が付いているが、ザックのように背負えるようになっている。見た目を気にせず、長い距離を荷物を背負って歩く想定がない場合での使用に

限定し、また重量オーバーにさえ気を付ければ、この収納容量と使い勝手はかなりコストパフォーマンスがよい品物だ。本音を言うとアウトドア専用の大容量のザックを購入する資金がないため、代用できそうなものが無いか必死で探した結果この商品にたどり着いた。本来このバッグは、アウトドアでの使用を目的として作られたものではない。貧乏人の負け惜しみにしかならないが、「目的を達成すること（ここでは荷物の運搬）ができるのであれば、なにも高価な専用のものを購入する必要はない」と強く自分自身に言い聞かせている。



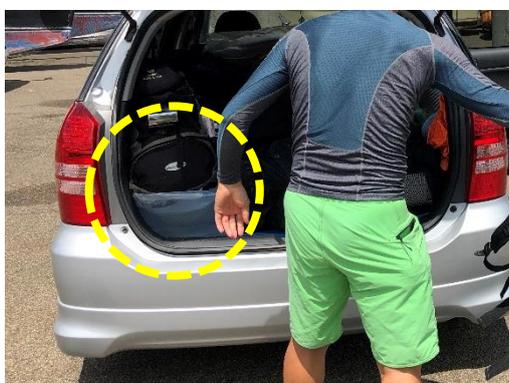
キャンプ用品一式を収め背負っている様子
数百メートルくらいなら問題なく荷物を運べる。通販価格（送・税込）700円は見事なコストパフォーマンスだ。見た目を一切気にしない私は、同商品の追加購入も検討している。

エ 軽量&コンパクトは本当に正義か？

一般的にキャンプ・アウトドア用品は持ち運びしやすい軽量なものや、使わないときはコンパクトに収納できるものが好まれて使用される。各アウトドアメーカーも必要な機能を備えつつも少しでも軽くなるよう、商品開発に暇が無い。一つひとつのアイテムがコンパクトになればより多くの荷物を持って行けるし、必要最小限にとどめれば容量の小さいザック一つで済む。これが昨今のアウトドア界でトレンドの一つになっている「荷物を極力減らし、できるだけ身軽に」という、UL（ウルトラライト）の考え方だ。私のバイブル（某オンライン動画配信サービス）でもこのUL推奨の動画が多く見られる。「軽量&コンパクト＝絶対正義」。そんな激しい思い込みで、これまでのキャンプ用品を揃えてきたが、実際にその状況下で使用しなければ気づかない用品の弱点が発覚したので、二つのエピソードを紹介する。

【エピソードその1】

キャンプをする上で必要不可欠なものは「水」である。今回の「研修」では、二日間の生活用水運搬のために、ソフトタイプのウォータータンク 20L用を準備した。キャンプのためだけではなく、台風被害での停電による断水に対応するために購入したものでもある。分厚いビニル製のタンクで、ちゃんと蛇口もついている。一番のこだわりは、使わないときにコンパクトにたたんで収納できる点である。もちろん軽量。



車内の荷物で潰れたウォータータンク
タンクの上ののっている大富氏の荷物にも被害が……。今回は大惨事に至らずに済んだが、軽量&コンパクトは本当に正義か？と今一度考え直すきっかけを与えてくれた。

「研修」一日目の朝、八分目まで水を入れたこのタンクと、「研修」の参加者五名分の道具の一切切を私の車にパンパンに詰め込み出発した。昼食を済ませ吉仁屋の港に到着して荷物を下ろそうとすると、荷物の一部が湿っぽい。よく見ると、ウォータータンクが他の荷物の下敷きになり、タンクが変形している。そして汚損防止のために車内に敷いていたシルバー色のブルーシート（ややこしい・・・）の上に小さな水たまりができていた。どうやら過度の加重により変形してタンク本体と蛇口の取り付け箇所にわずかな隙間ができ、そこから水がしみ出していたようだ。優秀な700円の私のバッグも防水性は皆無のために、多少の被害を受けていた。車に荷物を積み込む際に細心の注意を払えばよかったと後悔した。一方、小菌氏が準備したウォータータンクはハードタイプで、加重がかかっても変形せず、もちろん

水漏れもない。生活用水の運搬という最低限の目的は達成できたのだが、この一件で、一番のこだわりだった「たためる」機能が仇となり、あわや大惨事を引き起こす原因に。さらにはその責任問題から「研修」のメンバーから強制的に除外され無人島への渡航を許されない事態になり得るという、ソフトタイプ・ウォータータンクの最大の弱点が見えた。

【エピソードその2】

キャンプを快適に過ごすための必須アイテムの一つに「チェア」が挙げられる。食事をし、コーヒーを飲み、焚き火を囲み、のんびり海や夜空の星を眺める…。無人島で過ごす時間の半分くらいはチェアに座っているのではないだろうか。今回の「研修」に持参したチェアは、11本に分離されているアルミ合金製パイプを組み立てて骨組みを作り、それに座面と背もたれになる1枚のシートを張って使用する構造となっている。重さもおよそ900gと軽量、使わないときは2Lのペットボトル程度のサイズに収納できる。まさにUL、軽量&コンパクト。使用頻度も高く、これまでの「研修」にはもちろん、その他のキャンプや学校の遠足、子どもの小学校・幼稚園の行事でも活躍してくれている。これまで使用してきた特に問題を感じたことは無く、また座り心地も抜群で、絶対の信頼を寄せていたのだが、今回だけは勝手が違っていた。

直径15mmのパイプ4本がこのチェアの脚となっているのだが、我々が上陸した須子茂離島の海岸は想像以上に砂が柔らかく、チェアの脚が砂浜に埋もれてしまう。腰を下ろすと脚がズブズブと沈んですぐに座面の裏側が地面につき、チェアの役割を全く果たさない状態に陥ったのだ。背もたれにもたれようと体重をかけると、さらに後ろ脚が砂に埋もれ転倒してしまう。脚が埋もれる度に立ち上がり、砂から引き抜いて座り直す作業を繰り返していた。試しに平らな石やサンゴを脚の下に置き、砂に埋もれないように工夫してみたが、少し体を動かすだけでも4本のうちいずれかの脚がずれて埋もれ、たちまちバランスを崩し転倒してしまう。全面的に満足していた座り心地のよさは微塵も感じることができない。座り方を工夫してみようと、チェアに体重をかけないように自分の足を踏ん張り空気イス状態で過ごすも、数十秒で太ももとふくらはぎがプルプルしてきた。自慢のチェアも柔らかい砂の上で使用することで弱点が露呈し、全くリラックスできないだけでなく、最低限の機能であるはずの「座る」ことすらまともにできないチェアに落ちぶれてしまった。

持ってきたからには何としても使ってやりたいという思いで座り続けはしたが、このような場所では「組み立て式」ではなく、重くても頑丈かつ埋もれにくい構造の「折りたたみ式」のチェアの方が快適に過ごせたはずである。使用する場所や想定される事態を予測せず、軽量&コンパクトを重要視するあまり道具の選択を誤った。そんな自分の失敗を棚に上げ、「おまえのものは俺のもの！」とジャイアンの発想で、年下の大坪氏・小藺氏の座り心地のよさそうなチェアを取り上げる暴挙にできれば、次回の「研修」には絶対に呼ばれないだろうと想像しながら、のんきに鼻歌を歌っていた十数時間前の自分に「浮かれるな!!」と言ってやりたいと何度も思った。

オ グループキャンプの醍醐味

私は日頃から好んでコーヒーを飲んでいる。特に強いこだわりを持っているわけではないが、ほぼ毎日のように豆を挽き、ドリッパーで抽出し、ほっと一息リラックスできる時間を過ごしている。大自然の中で飲む挽き



朝日とコーヒーセット
夜明けとともにコーヒーを淹れる準備する。朝日を眺めながら至福の時間を過ごす。



私の定番 がつつり系朝食 in キャンプ

非日常では朝から食欲全開。1合のご飯の上には中華丼。味噌汁には、フリーズドライの野菜がたっぷり入っている。もちろん食後のコーヒーも欠かせない。

たて淹れたてのコーヒーはまた格別で、もちろん今回の「研修」でもコーヒーの時間を楽しみにしていて、お気に入りの豆・ミルク・ペーパーフィルター・ドリッパーのコーヒーセットを持参した。また、私は普段しっかりと朝食を摂る習慣を身につけていない。朝の慌ただしい中、食事を摂るゆとりがなかったり、起きて数時間は胃腸の動きが悪いのか、コーヒー1杯で満足したりと理由は様々ある。しかし、非日常（キャンプだけでなく宿泊を伴う出張等も含まれる）になると、なぜか朝から胃腸の調子も絶好調で食欲が湧いてくる体質らしく、キャンプでの朝食は、クッカーで炊いた白飯1合にレトルトのカレーや丼物（牛・親子・中華等）をかけ、インスタント味噌汁を添えるのが定番のメニューになっている。し

かも味噌汁はその時の気分によって味を変えられるように二種類以上を準備するようにしている。何の話をしているかという、実は今回の「研修」に持参した「ペーパーフィルター」と「インスタント味噌汁のみそ」が思わぬ形で活躍したのだ。詳しい内容は大冨氏、大谷氏、大坪氏の別筆を参考にして頂きたい。

日頃の職場では話せないことでも自然と会話が弾んだり、普段とは違う環境の中で時間を共有したり、不便な環境だからこそ仲間と助け合うことで絆が生まれたり、というのがグループキャンプの醍醐味である。この「助け合い」に当てはまるかどうかは疑問ではあるが、個人の楽しみのために持参した物が本来の目的以外の所で役に立ち、想定外の楽しみが生まれ、おかげで有意義な時間を共有することができた。ソロキャンプでは、そもそも「助け合い」の場が存在せず、また食料調達の際もお祭り騒ぎになる場面も存在しないだろう。気の合う仲間で行うグループキャンプには、予想できない楽しさの種がそこら中に転がっていることに気づく。

カ おわりに

三度目の参加にして念願の「ハンミヤ島」へ上陸を果たすことができた。島周辺のどこまでも見えそうなくらい透き通った海、上陸後すぐに海岸線から見上げた真っ白に輝く壁のような砂丘、そして息も絶え絶え登り切った砂丘からの風景、どれをとってもこれまで経験してきたものとは比較にならない。この絶景を見て感じる事ができたことの達成感で、登頂後しばらく声も出せなかった。本当に素晴らしい経験ができた。

最後に、日常を抜け出しかけがえのない時間を共に過ごした四名の職員と、一生に一度しかない息子の八才の誕生日の日に、家を留守にすることを許可してくれた家族に、深甚なる感謝の意を伝えたい。